

KAWASAKI STEEL GIHO

Vol.18 (1986) No.1

Installation of Oxygen Submarine Pipeline in Mizushima Port

(Satoshi Maeda)

(Akio Yokoyama)

(Shinsuke Sakai)

:

要旨

川崎製鉄水島製鉄所から東京製鉄株式会社岡山工場へ至る酸素配

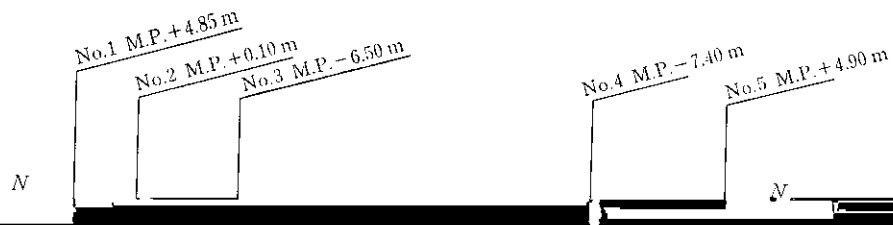
2.2 施工順序

2.3 工事の安全性の検討

溝へ砂を敷きならして管床を作る。次に、事前に陸上ヤードにて所定の寸法形状に製作しておいた長尺管を進水、曳航し沈設した。所定の位置に沈設されていることを確認した後埋め戻しを行った。

また、両岸の立ち上がり部については、一方は鋼管塔を海上へ空

め、工事の安全性の検討を第三者機関である瀬戸内海航行安全協会に業務委託し、本工事のための航行安全対策特別委員会を設立した。検討結果²⁾として、工事区域の設定 (Fig. 3 参照)、警戒船の配備などの措置がなされた。また、工事区域の拡大については、関係機関との協議を進めた。



MP-7.70 m

Seabed

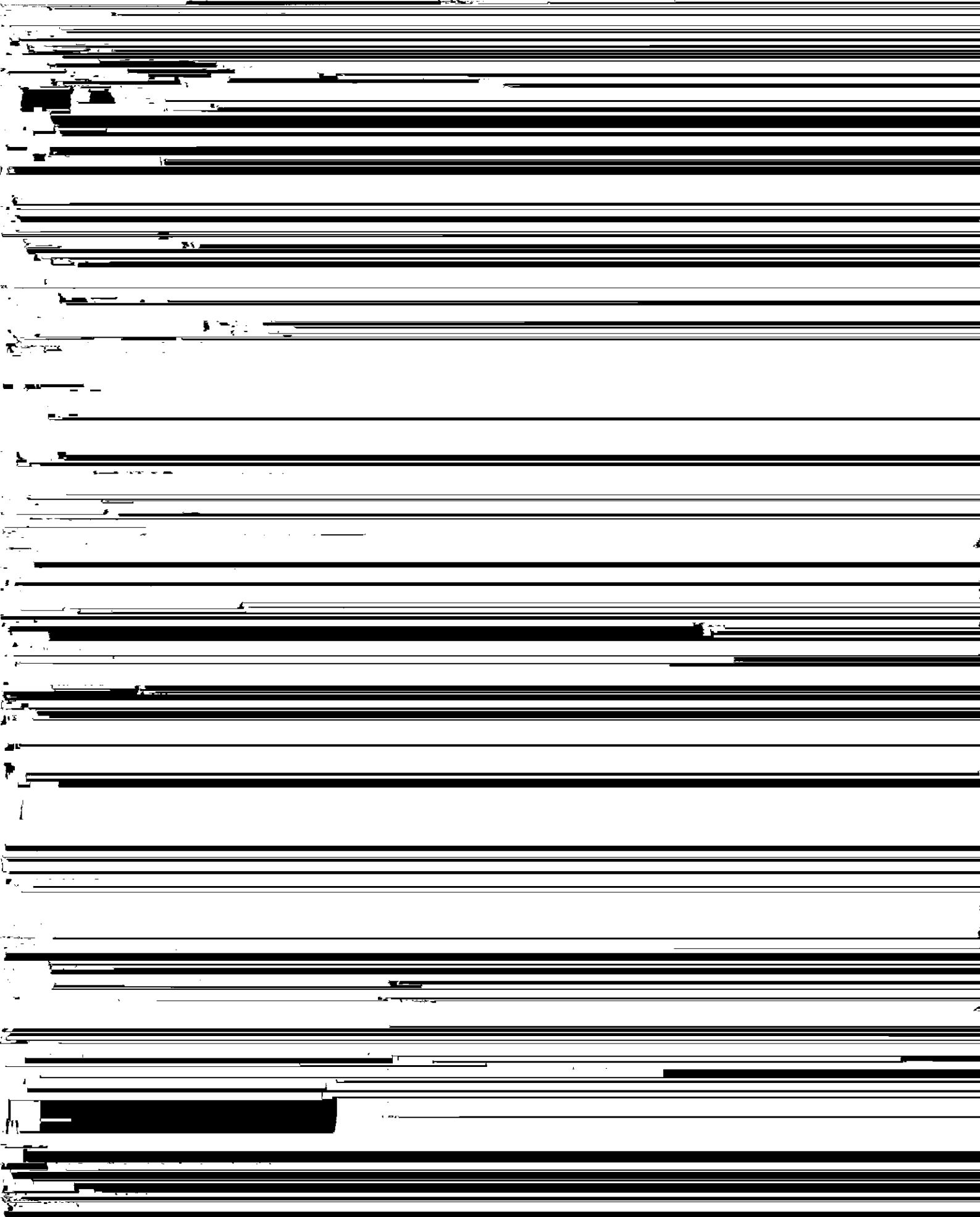


Table 2 Maximum stress in dynamic analysis of submarine pipeline during earthquake

	(kgf/cm ²)	
	Case 1 (El-Centro wave)	Case 2 (Hachinohe wave)
	207.00	291.00





- 3) 中山茂雄, 清宮 理: 「投錨試験における錨の貫入量」, 港湾技研資料, 錨試験結果報告書, 昭和47年10月
No. 218 (1975), 1-18
- 5) 清宮 理, 藤沢孝夫, 輪湖建雄: 「走びょう中のいかりの挙動と走びょ